

110 学年度第一学期 Eurasia 基金会国際講座

「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」系列講次(5)

講題：日本の多国籍企業の発展：PME の優位

中国文化大学 110 学年度 Eurasia 基金会国際講座第 5 回は、国際企業管理および国際企業経営戦略部門の著名な学者林彩梅教授を招き行われた。本学国際企業管理学系特約講座教授である林教授は自身も日本留学を経験し、日本の企業文化および経営理念を深く研究してきたので、自己の研究成果を以て学生たちにわかりやすく日本企業の管理精神について講じてくれた。

今回の主題「日本の多国籍企業の発展：PME の優位」で、林教授はこう述べた。日本企業の経営理念は倫理道徳を企業の基礎ならびに経営使命とする。日本企業の理念は消費者の幸福、社会の繁栄、世界平和のために努力することであり、営利だけを考えるのではない。同時に「人と仕事、人と企業」の関係、また「従業員、顧客と社会」の長期的な利益のために、どうバランスをとるかを考える。林教授は日本企業の文化的特色として以下をあげた。

温情主義：人と人の交流を強調することは、人と文化が良好なコミュニケーションを持つのに必須である。

終身雇用制：従業員の仕事を保障することで、高度な忠誠心を持った集団意識の文化を保つことができる。

創意工夫の教育：世界市民教育、厳格な品質管理、従業員の訓練、販売後のサービス向上に対する「関心」を持つこと、上司と部下が家庭的な共同意識を持つことを重視する。

日本企業の成功における PME の優位

題目にある PME の P は平和文化にもとづく経営理念 (Peace)、M は異文化管理 (Management)、E は倫理教育訓練 (Education) を指し、この三者は日本企業に成功をもたらした三大キーポイントである。

平和文化にもとづく経営理念 (Peace)：企業の国際化が進むにつれ、「リーダーは平和文化にもとづく経営理念を持つことが必要で、それによって民族、種族、宗教等を異にする異文化従業員の団結は得られ、国際市場競争力の上昇、経営成績の向上、卓越した成果をあげられる」と林教授は述べる。その他に、林教授は日本の各方面の具体例をあげて分析し、学生たちに速やかに日本の企業管理の精髓がどこにあるかを理解させた。

異文化管理 (M)：通常、国際的企業が直面する困難は人の管理である。本社の管理制度と地元の管理制度はうまく融合することが必要で、それによって従業員

の士気は上がり、企業が平和文化にもとづく経営理念を重視すればするほど成功する、と教授は指摘する。

倫理教育訓練 (Education) : 日本企業の教育は「人」において成功した。「人」は「心」の器である。それゆえ「心」の教育訓練は特に重視された。日本の教育訓練は「内面」と「外面」の二種に分けられ、「外面」の一般的な業務教育訓練以外に、日本企業はさらに「消費者の幸福」のための「内面」、また努力しようとする内的発奮作用を重視した。内外教育の理想的な組み合わせによって、従業員の士気は高まり、消費者の満足度も上がり、経営成績もよくなる三位一体の効果に達せられる。

日本の多国籍企業の国際競争力

林教授は、実際の数値を使って以下のことを示した。21世紀の日本経済の発展により、アメリカとヨーロッパに大きな輸出超過をもたらした。またアメリカ・カナダ協定あるいはヨーロッパ連合の加盟国ではない日本は、アメリカのスーパー301条の脅威といった幾重ものハードル、ヨーロッパ連合の高関税という障壁に直面して、いかにして国際競争力を高めたのか、ということ。

答えは「企業内貿易の効果」に成功したことである。日本は国外で機械、電気機器、輸送機器の三種の産業で高度な国際競争力を誇る。しかし、企業が得た最大の来源は外国の子会社、すなわち海外の「企業内貿易」からであり、販売額は日本の輸出額の3倍から6倍も多い、と教授は指摘する。

教育の共有

林教授は次のことを重視して述べる。教育の重要性は「青年学徒の心」を導くからである。学生は学習過程の中で、異なる教師の教えを受け、各種さまざまな学問に進む。そのため学生の「心」を適切に導くことが必要で、学校の教師は「経書の師」と「人の模範となる師」の役割をはたさなければならない。そうすることで一国の運命を変え、全人類の未来の運命を把握できる。

最後に林教授は学生たちと「幸福」の定義について討議した。各人の幸福の定義は異なる。しかし、「心」で感受することによって変わりなく、自分が幸福だと感じる時、幸福は訪れているのである。学生たちからも活発に質問が出た。林教授は講義後に学生が連絡を取り、再び一緒に討論することを歓迎すると述べた。講義では十分に意を尽くせなかったにしても、本講座は以上で終了した。

(Web サイト: <https://eurasia.pccu.edu.tw/index.php>)

(撰稿: 黄金堂・日文系副教授)

(日本語訳: 塚本善也・日文系副教授)